

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（鳴門教育大学・学校教育学部）

授業科目名	学校の組織と集団
教員名（専門分野）	芝山 明義, 久我 直人, 佐古 秀一(教育経営学, 教育社会学)
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ 選択 ・ 選択必修 ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教育の基礎理論に関する科目 ・教育に関する社会的, 制度的又は経営的事項
単位数・受講者数	2単位 ・ 73名
対象課程・対象学年	学部 ・修士・教職大学院 3, 4年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>1 集団による問題解決過程（第2～3週） 集団における問題解決 集団過程の比較</p> <p>2 教師の学級経営と学級集団の形成（第4～6週） 学級の集団構造 教師の集団経営と学級集団の構造 教師の集団経営と子ども理解</p> <p>3 学級経営の実践（第7～11週） 学級経営の重要性と教師の役割 年間を通しての学級経営 学級経営に求められる教師の省察力 ・問題行動対応等と教師の省察力 ・まとまりのある学級づくりと教師の省察力</p> <p>4 学校の組織と教育機能（第12週～15週） 学級崩壊の実態と教師・学校の対応 <u>「いじめ」の発生状況・態様と教師・学校の対応の在り方</u> <u>個別的な学級経営の限界と教職員の協働</u></p>

【授業内容】

- 1 「いじめ」の定義
- 2 「いじめ」の発生状況と態様：文部科学省の統計等より
 - ・わるふざけから悪質ないじめへ進展していること、いじめている側にはその認識が希薄なことについて
- 3 「いじめ」と学級集団構造
 - ・いじめのある学級集団の4層構造について
- 4 「いじめ」に対する教師の姿勢と対処
 - (1) 学級集団における「傍観者グループ」の影響
 - ・いじめの中心人物だけに指導を集中させるのではなく、傍観者をつくらないことを重視した学級集団づくりの重要性について。
 - (2) 教師の積極的な関与とその必要性
 - ・いじめが認知された場合、教師は積極的に関与すべきことについて。
 - ・子どもの教師に対する信頼形成の要因について
- 5 「いじめ」と学校の対応
 - (1) 個別の学級経営の限界
 - ・抱え込み型の学級経営の限界、周囲の教員と協力して問題解決にあたることの必要性について
 - (2) 教師の協働を作るための工夫
 - ・教師が協働するための情報の共有について
 - (3) 「いじめ」等問題行動に対する学校の情報提供
 - ・大津市立中学校における保護者への対応について（新聞報道等による）

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（鳴門教育大学・学校教育学部）

授業科目名	学校の危機管理
教員名（専門分野）	阪根 健二（学校教育学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教科又は教職に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 88名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>第1章 危機管理とは</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 学校における危機管理とは ①（意味と意義） 3 <u>学校における危機管理とは ②（今日的な課題）</u> <u>（いじめ対応のルールプレイ）</u> <p>第2章 学校運営の危機管理</p> <ol style="list-style-type: none"> 4 <u>教育活動中の事故・事件と学校の責任</u> <u>（事故、いじめ問題など）</u> 5 教育活動中の事故・事件と学校の責任 （大阪教育大学附属池田小学校の事例から） <p>第3章 教育活動中の危機管理</p> <ol style="list-style-type: none"> 6～8 遠足などの校外学習での危機管理 9～11 引率実習（おもちゃ王国）12月22日（土） <p>第4章 非常災害（自然災害）の危機管理</p> <ol style="list-style-type: none"> 12 災害での危機管理（大震災の事例から） 13～15 防災実習（徳島県南部地区現地実習）1月26日（土）

【授業内容】

(第3回)

学校における危機管理とは ② (今日的な課題)

(いじめ対応のロールプレイ)

いじめ問題がなぜ社会問題化しているのを理解させ、その対応をロールプレイで実施する。資料は、各都道府県の教育センターが作成した資料を参考にした。

今年度は、いじめ問題がマスコミに取り上げられていることから、NHK 徳島放送局の取材を受ける。

(第4回)

教育活動中の事故・事件と学校の責任

(事故、いじめ問題など)

前時のロールプレイを振り返り、これまでの裁判事例などで何が問題であったのか検証する。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（鳴門教育大学・学校教育学部）

授業科目名	生徒指導論（進路指導を含む）
教員名（専門分野）	葛上 秀文（教育社会学），吉井 健治，小倉 正義（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<input type="checkbox"/> 必修・ <input type="checkbox"/> 選択・ <input type="checkbox"/> 選択必修・その他（ <input type="checkbox"/> ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導，教育相談及び進路指導等に関する科目 ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 ・ 112名
対象課程・対象学年	<input type="checkbox"/> 学部・ <input type="checkbox"/> 修士・ <input type="checkbox"/> 教職大学院 学部 2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>1 オリエンテーション(第1週)</p> <p>2 心理的視点から</p> <p>(1) 生徒指導と子どもの心</p> <p>(2) 不登校</p> <p><u>(3) いじめ</u></p> <p>(4) 生徒指導上の諸問題</p> <p>(5) 発達障害児への生徒指導</p> <p>(6) スクールカウンセラーとの連携(1)</p> <p>(7) スクールカウンセラーとの連携(2)</p> <p>3 教育的視点から</p> <p>(1) 生徒指導の理論的背景</p> <p>(2) 生徒指導の実態とその原因</p> <p>(3) 小中学校の生徒指導の課題</p> <p>(4) 高等学校における生徒指導の課題</p> <p>(5) 生徒指導体制について</p> <p>(6) 子どもの課題への具体的対応</p> <p>(7) 保護者トラブルへの具体的対応</p> <p>(8) 進路指導とキャリア教育</p>

【授業内容】

こども理解、教育相談、ガイダンス、進路指導など、広く学校教育における教育機能としての生徒指導について、教師として学校で実際に役立つ根本的な考え方や態度を、教育的、心理的視点から学ぶ。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（鳴門教育大学・学校教育学部）

授業科目名	カウンセリング論 A
教員名（専門分野）	小倉 正義, 吉井 健治, 久米 禎子（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導，教育相談及び進路指導等に関する科目 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法
単位数・受講者数	2 単位 ・ 125 名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 3, 4 年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	1 オリエンテーション 2 カウンセリングの基礎理論(1) 3 カウンセリングの基礎理論(2) 4 カウンセリングの基礎理論(3) 5 カウンセリングの基礎理論(4) 6 子どもの話を聴く(1) 7 子どもの話を聴く(2) 8 中間のまとめ 9 保護者の話を聴く(1) 10 保護者の話を聴く(2) 11 青年期の心理と心の悩み 12 不登校について <u>13 いじめについて</u> 14 スクールカウンセラー活用の歴史・現状・課題 15 全体のまとめ

【授業内容】

学校教育において、児童生徒一人ひとりの人格形成を促したり種々の不適応や問題行動の予防的・開発的・解決的な教育指導・援助に取り組んでいく上で、カウンセリングに関する基礎的知識や基本的態度・技法を身に付けておくことが必要である。本授業では、カウンセリングの理論や技法、心の発達段階に応じた児童生徒理解や諸問題への対応等について概説する。また、不登校やいじめ、非行、および保護者への対応や他機関との連携等について、実践的・実地的な考え方や対応について学習する。

本授業を通して、生徒指導や教育相談における教師としての基礎的实践力を養うことができる。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（鳴門教育大学・学校教育学部）

授業科目名	予防教育科学と学校教育
教員名（専門分野）	佐々木 恵（行動医学） 内田 香奈子（学校心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・ <u>選択必修</u> ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教科又は教職に関する科目
単位数・受講者数	2 単位 ・ 34 名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 2 年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>第 1 回：<u>子どもたちの健康問題・適応問題の現状</u></p> <p>第 2 回：予防教育科学とは</p> <p>第 3 回：感情の役割とその重要性</p> <p>第 4 回：感情の理解と対処の育成（ベース総合教育における学校教育の実践 1）</p> <p>第 5 回：信を持って物事に前向きに取り組む特性の役割とその重要性</p> <p>第 6 回：自己信頼心(自信)の育成（ベース総合教育における学校教育の実践 2）</p> <p>第 7 回：<u>他者の気持ちを理解し他者を思いやる特性の役割と重要性</u></p> <p>第 8 回：<u>向社会性の育成（ベース総合教育における学校教育の実践 3）</u></p> <p>第 9 回：対人関係を円滑にする行動（ソーシャル・スキル）の役割と重要性</p> <p>第 10 回：ソーシャル・スキルの育成（ベース総合教育における学校教育の実践 4）</p> <p>第 11 回：身体的健康を高める学校教育とその教育の実際（オプション教育： 身体健康系）</p> <p>第 12 回：精神的健康を高める学校教育とその教育の実際（オプション教育： 精神健康系）</p> <p>第 13 回：危険行動を予防する学校教育とその教育の実際（オプション教育： 危険行動系）</p> <p>第 14 回：<u>学校適応を高める学校教育とその教育の実際（オプション教育：学 校適応系）</u></p> <p>第 15 回：健康と適応を守る学校教育の展望</p> <p>*<u>いじめ問題</u>を含め子どもの学校適応問題は、いじめに特化して予防しては効果がない。いじめ、暴力、不登校等は根本的な問題から生じているので、総合的なアプローチが強調される。したがって、本授業は、児童・生徒の健康・適応全般に関わるため、すべての回においていじめと関係があるが、特に密接なものに下線を付与している。</p>

【授業内容】

<本講義の趣旨>

近年の学校教育現場では、児童・生徒の心身の健康や適応に関する問題に対して、すべての児童・生徒を対象としたユニバーサル予防的なアプローチが求められている。本学予防教育科学教育研究センターでは、このようなニーズに対応すべく、「いのちと友情の学校予防教育(Trial Of Prevention School Education for Life and Friendship: TOPSELF)」を開発・展開している。TOPSELFは、健康・適応の基礎を築くために長期間に渡り実施するベース総合教育と、特定の問題の予防に特化し、短期的に実施するオプション教育からなる。本講義では、教職を目指す受講生が、児童・生徒への予防的アプローチの基礎的知識および態度を習得することを到達目標とする。

第1回：子どもたちの健康問題・適応問題の現状

いじめを含め、現在の学校教育現場における子どもたちの健康問題・適応問題について、受講生の関心のある領域について意見交換をするとともに、現状を概観し、学習への動機づけを高めた。



授業風景

第7回：他者の気持ちを理解し他者を思いやる特性の役割と重要性

いじめを予防する根本的な策として、児童・生徒の適応的な対人関係性を育成することが必要である。その要素のひとつが向社会性(他者を援助するための、感情・認知・行動特性)の育成である。本講義では、その理論的背景について詳細に解説し、実際に行われている授業の科学的根拠の理解を促した。

第8回：向社会性の育成(ベース総合教育における学校教育の実践3)

第7回で学習した理論的背景をもとに、実際の授業(一例)を体験する。2012年度では、中学1年生の第6回目の授業を扱い、他者への援助行動を阻む要因(他者からの評価への懸念、傍観者効果など)について、ディベートを含めた授業の実習を行った。

第14回：学校適応を高める学校教育とその教育の実際 (オプション教育：学校適応系)

学校適応問題の特定の領域に短期的にアプローチするオプション教育のうち、いじめ予防のプログラムの理論的背景の解説と実習を行った。



授業風景

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（香川大学・教育学部）

授業科目名	教育社会学
教員名（専門分野）	加野 芳正（教育社会学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・選択・ 選択必修 ・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項
単位数・受講者数	2単位 ・ 215名
対象課程・対象学年	学部 ・修士・教職大学院 2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<p>2012年後期の場合</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. <u>いじめ問題（その1）</u> 3. <u>いじめ問題（その2）</u> 4. 家族と子どもの社会化 5. 地域社会と子どもの育ち 6. メディア環境と青少年 7. グローバリゼーションのなかの学校と教師 8. 学校カリキュラムの社会学的課題 9. 教育問題としての不登校 10. 教育とジェンダー 11. 青少年に対する厳罰化は何をもたらすのか？ 12. 教育における選抜と排除 13. 学校から社会・職業への移行 14. 学歴と職業 15. 教育社会学の思考－実践とリフレクション

【授業内容】

第2回（いじめ問題（その1））

いじめがどのように社会問題化していったか

いじめ行動の特徴は何か

いじめはなぜ発生するのか 等の内容を解説

また、NHK中学生日記のなかから、いじめを題材とした内容（30分）を視聴

第3回（いじめ問題（その2））

子ども世界の特徴といじめ

学級集団といじめの発生

新しいいじめの形態としてのネットいじめについて

また、ネットいじめを題材とした番組（NHK 30分）を視聴

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（香川大学・教育学部）

授業科目名	生徒指導論B
教員名（専門分野）	毛利 猛（臨床教育学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 180名
対象課程・対象学年	<input checked="" type="checkbox"/> 学部・修士・教職大学院 2～4年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所に下線）	<ul style="list-style-type: none"> (1) オリエンテーション (2) ほめと叱りの現象学 (3) 教育とイメージ (4) 役割の獲得・役割の突破 (5) 教育とカウンセリング (6) 中高校生の「不登校」 (7) 学級づくりと生徒指導 (8) 「あがり」の人間学 <u>(9) 「いじめ」を考える。</u> (10)生徒指導ケーススタディ（その1） (11)思春期と家族 (12)中間管理職の人間学 (13)生徒指導ケーススタディ（その2） (14)部活動の教育的意義 (15)まとめ

【授業内容】

第9回「いじめ」を考える

1、「いじめ」という問題

- モラルパニックと名詞「いじめ」の成立
- いじめの語られ方ー物語論的アプローチ

2、いじめの記号論

- 差異の強調とヴァルネラヴィリティー

3、集団現象としてのいじめ

- いじめ集団の4層構造
- いじめの構造を破壊せよ

4、共同性に関わる問題

- いじめの二つの顔

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（香川大学・教育学部）

授業科目名	人間形成論（イ）
教員名（専門分野）	柳澤 良明（教育学（学校経営学・比較教育学））
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	学部必修科目（学校教育教員養成課程および人間発達環境課程に属する1年生の必修科目）
単位数・受講者数	2単位 ・ 84名
対象課程・対象学年	<input checked="" type="checkbox"/> 学部・修士・教職大学院 1年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>第1回 授業のテーマおよび方法、発表項目（案）の提示、発表テーマのエントリー</p> <p>第2回 資料の作成方法、参考文献の書き方、発表日程、班活動</p> <p>第3回 プレゼンテーション準備の観点、班活動</p> <p>第4回 班内発表</p> <p>第5回 1班発表：親子関係論・家庭教育論・児童虐待論</p> <p>第6回 2班発表：友人仲間論・遊び論</p> <p>第7回 3班発表：メディア論・メディア・リテラシー論</p> <p>第8回 4班発表：学力論・学力向上論</p> <p>第9回 5班発表：教師論・指導者論</p> <p>第10回 6班発表：学校論・ホームスクール論</p> <p>第11回 7班発表：キャリア教育論・ニート・フリーター論・大人論</p> <p>第12回 8班発表：自己認識論・他者論・自尊感情論</p> <p>第13回 9班発表：日本人論・日本文化論</p> <p><u>第14回 10班発表：いじめ論・不登校論</u></p> <p>第15回 講義：学校参加論</p>

【授業内容】

第14回 10班発表：いじめ論・不登校論

90分の授業の前半は、担当学生（8～9名のグループ）による研究発表、後半は出席した学生全員による質疑応答および授業者（柳澤）による解説・講義で構成されている。

第14回の10班による発表内容は、「いじめにどう立ち向かうか?」「不登校にどう向き合うか?」を討議テーマに、「(1) いじめの現状と発生構造」、「(2) いじめの対策」、「(3) ネットいじめの実態と対策」、「(4) 不登校の現状と取り組み」の4つを柱で構成されている。

授業の最後に、研究発表や質疑応答をもとに記入した意見や関連情報に関するカードを全員が提出する。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（香川大学・教育学部）

授業科目名	学校教育相談学 A
教員名（専門分野）	宮前 淳子（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法
単位数・受講者数	2 単位 ・ 91 名（平成 24 年度）
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 3 年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<ul style="list-style-type: none"> (1) オリエンテーション <u>(2) 学校教育相談の実際</u> (3) 児童理解とその方法 (4) 教室での仲間づくり I (5) 子どもを取り巻く環境 I (6) 学校教育相談におけるアセスメント <u>(7) 学校教育相談におけるかかわりの技法</u> <u>(8) 教室での仲間づくり II</u> (9) 不登校対応・教師のメンタルヘルス (10) 子どもを取り巻く環境 II <u>(11) 保護者との連携</u> (12) 虐待等への対応 (13) 学校教育相談の組織と連携 (14) 危機介入 (15) まとめ

【授業内容】

(2) 学校教育相談の実際

いじめや不登校等の現状、学校現場における支援・指導の実際について

(7) 学校教育相談におけるかかわりの技法

いじめの問題に関しては、加害者、被害者への対応、また傍観者を含め教室・学校においてどのような対応が求められるかについて

(8) 教室での仲間づくりⅡ

予防的支援の方法と実践時の留意点等について

(11) 保護者との連携

保護者への対応、連携の方法について

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（香川大学・教育学部）

授業科目名	学校教育相談学 B
教員名（専門分野）	宮前 淳子（臨床心理学）
教員の免許状取得のための 必修・選択の区分	<u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上 の位置づけ	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法
単位数・受講者数	2 単位 ・ 120 名（平成 24 年度）
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 3 年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<ol style="list-style-type: none"> (1) オリエンテーション <u>(2) 学校教育相談の実際</u> (3) 生徒理解とその方法 (4) 教室での仲間づくり I (5) 対人関係ゲームの理論と実際 (6) 中学生を取り巻く環境 I (7) 学校教育相談におけるアセスメント <u>(8) 学校教育相談におけるかかわりの技法</u> <u>(9) 教室での仲間づくり II</u> (10)中学生を取り巻く環境 II <u>(11)保護者との連携</u> (12)学校教育相談の組織と連携 (13)非行・性教育・進路指導 (14)危機介入 (15)まとめ

【授業内容】

(2) 学校教育相談の実際

いじめや不登校等の現状、学校現場における支援・指導の実際について

(8) 学校教育相談におけるかかわりの技法

加害者および被害者への対応、また傍観者を含め教室・学校においてどのような対応が求められるかについて

(9) 教室での仲間づくりⅡ

予防的支援の方法と実践時の留意点等について

(11) 保護者との連携

保護者への対応、連携の方法について

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（香川大学・教育学部）

授業科目名	人間関係論
教員名（専門分野）	宮前 淳子（臨床心理学）
教員の免許状取得のための 必修・選択の区分	必修・選択・選択必修・ その他 （全学共通科目）
教育職員免許法施行規則上 の位置づけ	—————（全学共通教育科目）
単位数・受講者数	2単位 ・ 247名（平成24年度）
対象課程・対象学年	学部 ・修士・教職大学院 1～2年生対象
授業計画 (いじめに該当する箇所 に下線)	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 心理的発達と人間関係</p> <p>第3回 成長を支える人間関係 -家族</p> <p>第4回 成長を支える人間関係 -友達</p> <p>第5回 成長を支える人間関係 -異性</p> <p>第6回 人間関係のなかの自己Ⅰ</p> <p>第7回 人間関係のなかの自己Ⅱ</p> <p>第8回 人間関係のなかの自己Ⅲ</p> <p>第9回 <u>人間関係のゆらぎと困難</u> -いじめ</p> <p>第10回 人間関係のゆらぎと困難 -DV, デートDV</p> <p>第11回 人間関係のゆらぎと困難 -うつ, ストレス</p> <p>第12回 人間関係のゆらぎと困難 -虐待</p> <p>第13回 コミュニケーション・スキルⅠ</p> <p>第14回 コミュニケーション・スキルⅡ</p> <p>第15回 コミュニケーション・スキルⅢ</p>

【授業内容】

第9回 人間関係のゆらぎと困難 -いじめ

学校、家庭、職場等における人間関係の問題、いじめの定義と現状、対応について

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（愛媛大学・教育学部）

授業科目名	生徒指導論
教員名（専門分野）	富田 英司（教育心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導，教育相談及び進路指導等に関する科目 ・生徒指導の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 ・ 228名（2クラス合計）
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p><第1部：生徒指導の基礎知識とキャリア教育></p> <p>第1回 オリエンテーション（授業の概要説明）</p> <p>第2回 生徒指導の過去と現在（「生徒指導」概念と変遷）</p> <p>第3回 キャリア教育を通じた「生き方」教育①（キャリア教育の考え方・キャリアインタビュー）</p> <p>第4回 キャリア教育を通じた「生き方」教育②（キャリア志向の理解と指導）</p> <p>第5回 生徒理解と教育相談（生徒理解の手法，カウンセリングマインド）</p> <p><第2部：生徒指導実践を支えるコミュニケーション></p> <p>第6回 コミュニケーションの基礎：議論の方法を知る</p> <p>第7回 ワークショップ型授業の実践①：議論の体験</p> <p>第8回 ワークショップ型授業の実践②：議論の改善</p> <p>第9回 ワークショップ型授業の実践③：議論の改善</p> <p><第3部：問題行動と不応></p> <p><u>第10回 反社会的行動の理解（いじめ，非行，アンガーマネジメント）</u></p> <p>第11回 非社会的行動の理解（不登校，虐待，引きこもり，ニート）</p> <p>第12回 不応と愛着（幼児期の愛着と不応との関係）</p> <p>第13回 発達障害（広汎性発達障害，学習障害，ADHD）</p> <p>第14回 予備日（13回までの補遺等）</p> <p>第15回 テストとその解説</p>

【授業内容】

第10回 反社会的行動の理解（いじめ，非行，アンガーマネジメント）

この回では，いじめに関わる子どもの認知過程に関して海外で実施された実験の諸結果，いじめの捉え方に関する諸理論，国立教育政策研究所によるいじめ実態のパネル調査等を紹介した後，予防的・開発的な手立てについて紹介している。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（愛媛大学・教育学部）

授業科目名	教育相談論
教員名（専門分野）	相模 健人（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<input type="checkbox"/> 必修・ <input type="checkbox"/> 選択・ <input type="checkbox"/> 選択必修・その他（ <input type="checkbox"/> ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導，教育相談及び進路指導等に関する科目 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 ・ 228名（2クラス合計）
対象課程・対象学年	<input type="checkbox"/> 学部・ <input type="checkbox"/> 修士・ <input type="checkbox"/> 教職大学院 2年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>第1回 ガイダンス 担当決め</p> <p>第2回 学校の実態について</p> <p>第3回 教育相談について</p> <p>第4回 子どものために教師には、スクールカウンセラーには何が出来るか？(ミニシンポ)</p> <p>第5回 事例Ⅰ（問題行動）</p> <p>第6回 カウンセリングについて その1 WOWW アプローチの説明</p> <p>第7回 不登校は学校に行かせるべきか？休ませるべきか？(ミニシンポ)</p> <p>第8回 事例Ⅱ その1（不登校）WOWW アプローチ その1</p> <p>第9回 事例Ⅱ その2（不登校）</p> <p>第10回 <u>カウンセリングについて その2</u> 事例Ⅲ（いじめ）</p> <p>第11回 事例Ⅳ その1（相談室登校）WOWW アプローチ その2</p> <p>第12回 事例Ⅳ その2（相談室登校）</p> <p>第13回 事例Ⅴ（コンサルテーション）WOWW アプローチ その3</p> <p>第14回 教員の対応について</p> <p>第15回 まとめ</p>

【授業内容】

第10回 カウンセリングについて その2 事例Ⅲ (いじめ)

この回では、子どものかかわりについて考えることを目的に、中2女子のいじめの訴えについて、カウンセリング技法を用いながら1回の面接で終結した事例を取り上げ、子どもとのやり取りを通してカウンセリング技法を適切に用いることで、不登校やいじめについての対応を子ども自身が変えることができることを示す。

なお、上記とは別に、数回課す課題レポートにおいて、いじめ事実への対応、あるいはいじめの訴えに教員としてどう対応するかについて、架空事例をもとに課題を出し、提出されたレポートに対して評価・解説している。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（愛媛大学・教育学部）

授業科目名	教職教養課題特講Ⅱ
教員名（専門分野）	川岡 勉（コーディネーター，日本史）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教科又は教職
単位数・受講者数	2単位 ・ 94名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 3年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>第一回 オリエンテーション</p> <p>第二回 生徒指導の課題</p> <p>第三回 学校における不審者対策に向けて（愛媛県警）</p> <p>第四回 少年問題・少年犯罪の現状（愛媛県警）</p> <p>第五回 薬物乱用防止教室（愛媛県警）</p> <p>第六回 インターネット犯罪とその対策（愛媛県警）</p> <p>第七回 <u>いじめを防止するために（いじめ被害者の願い）</u></p> <p>第八回 子どもたちの問題と向き合って(1)（児童自立支援施設： 実地指導講師）</p> <p>第九回 <u>子どもたちの問題と向き合って(2)（スウェーデンのいじ め対策）</u></p> <p>第十回 発表資料作成</p> <p>第十一回 子どもたちの＜問題＞と向き合う教師へ（グループワー ク）</p> <p>第十二回 子どもたちの＜問題＞と向き合う教師へ（グループワー ク）</p> <p>第十三回 子どもたちの＜問題＞と向き合う教師へ（グループワー ク）</p> <p>第十四回 子どもたちの＜問題＞と向き合う教師へ（グループワー ク）</p> <p>第十五回 最終講話</p>

【授業内容】

第七回 いじめを防止するために（いじめ被害者の立場から）

いじめにより自らの命を絶った高校生の母親を招き、「将来教員になる人へのメッセージ」と題して講話をしてもらった。学校でのいじめ、自殺、学校とのやり取り、裁判の提起、和解の顛末及びその中の学校・教員、教育委員会の対応を具体的に語る中で、改めて、教員となる学生に、いじめの本質を理解すること、軽微な兆候でも決して甘く考えずに、真摯に対応することなど、いじめ防止のための具体的手だて等が、被害者の立場から論じられた。

第九回 子どもたちの問題と向き合って(2)（スウェーデンのいじめ対策）

スウェーデンで生まれ、成人するまでそこで生活し、そののち日本国籍を取得した人を招き、スウェーデンのいじめ対策、特に関係児童生徒の精神を落ち着かせ、コミュニケーション、人間関係づくりを促進する具体的手法としてスウェーデンで広く普及している「キッズ・タクティール」の基本コンセプト、技法が、実技指導をまじえながら講じられた。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（愛媛大学・教育学部）

授業科目名	教育相談研究
教員名（専門分野）	信原 孝司（臨床心理学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導，教育相談及び進路指導等に関する科目 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法
単位数・受講者数	2単位 ・ 11名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 3年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>第1回 授業ガイダンス・オリエンテーション</p> <p>第2回 教育相談概論1</p> <p>第3回 教育相談概論2</p> <p>第4回 テーマ1：不登校</p> <p>第5回 <u>テーマ2：いじめ問題</u></p> <p>第6回 テーマ3：反社会的問題行動</p> <p>第7回 児童生徒の心理を考える1：ふりかえり</p> <p>第8回 テーマ4：児童虐待と心的外傷</p> <p>第9回 テーマ5：保護者に対する援助</p> <p>第10回 テーマ6：教師のメンタルヘルス</p> <p>第11回 紙上応答訓練</p> <p>第12回 児童生徒の心理を考える2：ふりかえり</p> <p>第13回 ロールプレイ1</p> <p>第14回 ロールプレイ2</p> <p>第15回 最終レポート</p>

【授業内容】

第5回 テーマ2：いじめ問題

いじめ問題について、テーマ担当の学生達が調べたことや考えたことを発表し、いじめ問題のロールプレイを実施して、クラス全体でディスカッションを行う。その後、授業者から補足説明が行われ、また、関連映像を視聴し、小レポートを提出する。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（愛媛大学・教育学部）

授業科目名	教育実践研究 I（教育問題）
教員名（専門分野）	太田 佳光（教育社会学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	必修・ <u>選択</u> ・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	教科又は教職
単位数・受講者数	2 単位 ・ 4 5 名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 3 年生対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>第 1 回 ガイダンス：教育問題の現状と課題</p> <p>第 2 回 授業妨害と逸脱（1）：中学生日記を事例として</p> <p>第 3 回 授業妨害と逸脱（2）：逸脱論とボンド理論</p> <p>第 4 回 逸脱行動と立ち直り（1）：実践事例からの考察</p> <p>第 5 回 逸脱行動と立ち直り（2）：ラベリング論と生徒指導</p> <p>第 6 回 逸脱行動の現状と課題：教師の役割とは</p> <p>第 7 回 第 1 回から第 6 回までの補足説明と討論</p> <p>第 8 回 <u>いじめ問題と教師（1）：ある事例の検討から</u></p> <p>第 9 回 <u>いじめ問題と教師（2）：カウンセリングマインドと教師</u></p> <p>第 10 回 <u>いじめ問題と学級集団（1）：いじめの類型化と生起のメカニズム</u></p> <p>第 11 回 <u>いじめ問題と学級集団（2）：集団論といじめ対策</u></p> <p>第 12 回 <u>教育問題と学級づくり（1）：いじめを起こさない学級づくりとは</u></p> <p>第 13 回 教育問題と学級づくり（2）：集団を意識した学級づくり</p> <p>第 14 回 教育問題と学級づくり（3）：人間関係を意識した学級づくり</p> <p>第 15 回 補足説明と総括的討論</p>

【授業内容】

第8回 いじめ問題と教師（1）：ある事例の検討から

実際のいじめ事例とフィクションの事例（中学生日記）をもとに、いじめ問題への教師の対応について考察をし、その評価点と課題について討議を行う。

第9回 いじめ問題と教師（2）：カウンセリングマインドと教師

先の討議をもとに、教師のいじめ問題の対応について、個別の指導を中心に考察をする。その中から、被害者への対応と同時に、加害者たちへの対応が必要であることを確認する。

第10回 いじめ問題と学級集団（1）：いじめの類型化と生起のメカニズム

実際のいじめ事例をもとにした調査研究をもとに、いじめの四層構造論に代表される考え方を確認する。その上で、さらに詳細ないじめの類型（スケープゴート型やヒエラルキー型等）を提示し、いじめ生起のメカニズムを集団論の視点から分析する。

第11回 いじめ問題と学級集団（2）：集団論といじめ対策

いじめ生起のメカニズムと学級集団のあり方について検討し、いじめが起きにくい学級集団の特徴について、実践事例を参考にしながら考察する。

第12回 教育問題と学級づくり（1）：いじめを起こさない学級づくりとは

学級づくりという考え方から、いじめが起きにくい学級の特徴として「支持的風土」を持った集団づくりの重要性を指摘し、その具体的な方法論について検討する。

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（高知大学・教育学部）

授業科目名	教育相談 A（学校教育教員養成課程学生用科目）
教員名（専門分野）	古口 高志（臨床心理学・行動医学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導，教育相談及び進路指導等に関する科目
単位数・受講者数	2 単位 ・ 1 2 0 名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 2 年生（以上）対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>第 1 回：オリエンテーション</p> <p>第 2 回：教育相談全般についての概論</p> <p>第 3 回：「教育相談全般についての概論」の補足等 & 本講義におけるレポートの書き方について</p> <p><u>第 4 回：教育相談における基礎的知識・技術①</u> <u>カウンセリングマインド</u></p> <p>第 5 回：教育相談における基礎的知識・技術②“聴く”技術</p> <p>第 6 回：上記のつづき</p> <p>第 7 回：教育相談における基礎的知識・技術③ 合理的思考と非合理的思考</p> <p>第 8 回：教育相談における基礎的知識・技術④ 非合理的思考への気づきと修正</p> <p>第 9 回：上記のつづき</p> <p><u>第 1 0 回：児童生徒の身体・心理・行動的問題①学校ストレス</u></p> <p><u>第 1 1 回：児童生徒の身体・心理・行動的問題②</u> <u>不登校をどう捉えるか</u></p> <p>第 1 2 回：児童生徒に対する効果的な援助①認知行動的援助の基礎</p> <p>第 1 3 回：児童生徒に対する効果的な援助②認知行動的援助の実際</p> <p>第 1 4 回：その他教育相談に関わる事項について （発達障害，教員のメンタルヘルス，スクールカウンセラー等）</p> <p>第 1 5 回：講義全体のふりかえり・補足・質疑等</p>

【授業内容】

(第4回：教育相談における基礎的知識・技術①カウンセリングマインド)

①教育現場でカウンセリングマインドが重視されるようになった経緯

- ・「指示」「指導」「教える」といったスタンスに基づく対応

⇒増加する「校内暴力」「いじめ」「不登校」等の教育臨床的問題への対応に苦慮

⇒児童・生徒対応のための“新たな視点”“異なる視点”の導入

②いわゆる「受容・共感・自己一致（純粋性）」の教育相談における位置づけ

- ・これ自体を具体的な技法、金科玉条と捉えるのではなく、基本的な心構えと捉えた上で、学校現場の持つ特性や制限に合わせて柔軟に対応していくことが重要。

(第10回：児童生徒の身体・心理・行動的問題①学校ストレス)

①ストレスとストレッサー

②児童生徒が抱える学校ストレス

- ・子ども目線で見ると、学校生活は“ストレスの種”だらけ。
- ・子どもの4大症状（易疲労感，頭痛，腹痛，熱発）と様々なサイン

⇒教師がこれらに鈍感であったり養護教諭に丸投げしてしまったりすると、様々なストレス関連疾患や、非行・校内暴力・いじめ・不登校といった問題に発展しやすい。

(第11回：児童生徒の身体・心理・行動的問題②不登校をどう捉えるか)

①不登校の文部科学省的定義

②不登校の前兆行動（サイン）

③不登校の多様性

- ・不登校は様々な要因によって起こりうる。

(いじめは代表的要因の1つではあるが、必ずしもいじめ等に起因するとは限らない)

- ・詳しく情報を収集・整理する前に、初めから「原因はいじめのはず！」といった形で決めてかからないこと。

④不登校を理解する際の重要な観点

- ・原因探しだけでは×
- ・発達障害，起立性調節障害などが重複していないか（○な場合，それらの治療・援助も必要）
- ・維持要因にも注目（条件づけが成立していないか，認知の歪み等が問題を増幅していないか等）

I-① いじめに関する教育活動（正規のカリキュラム）

（高知大学・教育学部）

授業科目名	教育相談C（生涯教育課程&他学部学生用科目）
教員名（専門分野）	古口 高志（臨床心理学・行動医学）
教員の免許状取得のための必修・選択の区分	<u>必修</u> ・選択・選択必修・その他（ ）
教育職員免許法施行規則上の位置づけ	生徒指導，教育相談及び進路指導等に関する科目
単位数・受講者数	2単位 ・ 60名
対象課程・対象学年	<u>学部</u> ・修士・教職大学院 2年生（以上）対象
授業計画 （いじめに該当する箇所 に下線）	<p>第 1回：オリエンテーション</p> <p>第 2回：教育相談全般についての概論</p> <p>第 3回：「教育相談全般についての概論」の補足等 & 本講義におけるレポートの書き方について</p> <p><u>第 4回：教育相談における基礎的知識・技術①</u> <u>カウンセリングマインド</u></p> <p>第 5回：教育相談における基礎的知識・技術②“聴く”技術</p> <p>第 6回：上記のつづき</p> <p>第 7回：教育相談における基礎的知識・技術③ 合理的思考と非合理的思考</p> <p>第 8回：教育相談における基礎的知識・技術④ 非合理的思考への気づきと修正</p> <p>第 9回：上記のつづき</p> <p><u>第10回：児童生徒の身体・心理・行動的問題①学校ストレス</u></p> <p><u>第11回：児童生徒の身体・心理・行動的問題②</u> <u>不登校をどう捉えるか</u></p> <p>第12回：児童生徒に対する効果的な援助①認知行動的援助の基礎</p> <p>第13回：児童生徒に対する効果的な援助②認知行動的援助の実際</p> <p>第14回：その他教育相談に関わる事項について （発達障害，教員のメンタルヘルス，スクールカウンセラー等）</p> <p>第15回：講義全体のふりかえり・補足・質疑等</p>

【授業内容】

(第4回：教育相談における基礎的知識・技術①カウンセリングマインド)

①教育現場でカウンセリングマインドが重視されるようになった経緯

- ・「指示」「指導」「教える」といったスタンスに基づく対応

⇒増加する「校内暴力」「いじめ」「不登校」等の教育臨床的問題への対応に苦慮

⇒児童・生徒対応のための“新たな視点”“異なる視点”の導入

②いわゆる「受容・共感・自己一致（純粋性）」の教育相談における位置づけ

- ・これ自体を具体的な技法、金科玉条と捉えるのではなく、基本的な心構えと捉えた上で、学校現場の持つ特性や制限に合わせて柔軟に対応していくことが重要。

(第10回：児童生徒の身体・心理・行動的問題①学校ストレス)

①ストレスとストレッサー

②児童生徒が抱える学校ストレス

- ・子ども目線で見ると、学校生活は“ストレスの種”だらけ。
- ・子どもの4大症状（易疲労感，頭痛，腹痛，熱発）と様々なサイン

⇒教師がこれらに鈍感であったり養護教諭に丸投げしてしまったりすると、様々なストレス関連疾患や、非行・校内暴力・いじめ・不登校といった問題に発展しやすい。

(第11回：児童生徒の身体・心理・行動的問題②不登校をどう捉えるか)

①不登校の文部科学省的定義

②不登校の前兆行動（サイン）

③不登校の多様性

- ・不登校は様々な要因によって起こりうる。

(いじめは代表的要因の1つではあるが、必ずしもいじめ等に起因するとは限らない)

- ・詳しく情報を収集・整理する前に、初めから「原因はいじめのはず！」といった形で決めてかからないこと。

④不登校を理解する際の重要な観点

- ・原因探しだけでは×
- ・発達障害，起立性調節障害などが重複していないか（○な場合，それらの治療・援助も必要）
- ・維持要因にも注目（条件づけが成立していないか，認知の歪み等が問題を増幅していないか等）